Local Area News

地粉うどんに園児が舌つづみ
群馬県製麺工業(協)

11月16日、太田市・若葉幼稚園において、園児や職員にうどんの提供を行った。

組合では、県産の小麦品種「さとのそら」「きぬの波」を原料としたソフト麺500食分を提供。園内で収穫した大根などを具材に「けんちんうどん」にして味わった。

うどんは好評で、おかわりをする園児の姿も。同組合は、県産小麦の消費拡大につなげようと、3年前から県内の幼稚園や保育園に麺食の提供を行っており、今後も継続していく方針となっている。

農畜産業のマッチングを図る
(一社)群馬県信用組合協会

11月22日、高崎市・ニューサンピアにおいて、「第4回群信協アグリビジネス商談会」を開催した。

本商談会には、あかぎ信用組合、群馬県信用組合、ぐんまみらい信用組合の取引先から、農産物・食品等の生産者18社、ホテルや式場などバイヤーも18社参加。展示スペースには、生産者自慢の逸品がずらりと並べられた。

隣接して設けられた商談スペースでは、販路拡大につなげようと、生産者とバイヤーが活発に情報交換を行う姿が見受けられた。

安中市と災害時応援協定
群馬県オートバイ事業(協)

11月27日、安中市・安中市役所において、「災害時における安中市と群馬県オートバイ事業協同組合の協力に関する協定」の締結式を開催した。

小回りの利くオートバイの特性を生かし、災害時には組合員が被災地域の情報収集や車が進入できない地域への救援物資の輸送を担う。

茂木英子安中市長は、「災害で道路が寸断されることがある。オートバイの働きで命が救える」と期待を述べた。城田新二理事長は「安中市の安心・安全に協力したい」と抱負を述べた。

同組合では、県内自治体と同様の協定を締結しており、今回は群馬県、前橋市、館林市、藤岡市、みどり市、渋川市に次いで7件目となる。

協定書を掲げる城田理事長(右)と茂木市長

館林紬の魅力をPR
館林織物連合（協）

11月28日、館林市・三の丸芸術ホールにおいて、「春夏向館林織物新作品求評会」を開催した。

「館林紬」は、色合い豊かな縞模様と木綿織りによる独特の風合いが特徴。組合では、一般の消費者に「館林紬」の良さを知ってもらおうと、求評会を毎年開催している。

会場では、反物のほか、トートバッグ、リュック、ボディバッグなど現代のニーズに合わせた品々を展示した。また、「館林紬」の歴史を伝えるパネルの展示も併せて行った。

現代的にアレンジされた品々

ブロック塀の安全について学ぶ
群馬県コンクリートブロック事業（協）

11月29日、前橋市・群馬県生涯学習センターにおいて、「ブロック塀は今～今、必要とされるブロック塀の安全な設計と施工方法について」をテーマに講習会を開催した。講師は、小山工業高等専門学校名誉教授の川上勝弥氏。

同講習会は、昨年6月の大阪北部地震で、小学生が倒れてきたブロック塀の下敷きになり死亡する事故が起きたことから、ブロック塀の安全性について正しい知識を得るために開催したもの。

川上氏は、ブロック塀の設計基準について説明し「本来、各種基準を遵守すれば、安心して生活できる基準が満たされるはずだが、不適切な設計・施工や経年劣化による性能低下によって予期せぬ倒壊が起こり得る」と指摘。

次いで、所有者・管理者、施工業者に係る責任や法律について解説。ブロック塀診断士の資格取得も呼び掛けた。

業界で非常に関心が高く、受講希望者の多いテーマのため、2月中に再度の開催を予定している。

環境保護への取組みを評価
館林金属工業団地（協）

12月18日、館林市・館林市文化会館において、「平成30年度館林市環境賞顕彰式」が開催され、同組合が環境管理の部門で受賞した。

組合では、廃棄物の低減やクールビズの推進など環境保全への取組みを積極的に行っており、平成20年には環境GS（ぐんまスタンダード）を取得。こうした取組みが認められ、今回の受賞に至った。

顕彰式には多田征訓理事長が出席し、須藤和臣館林市長より顕彰状を受け取った。多田理事長は「市民が安心して暮らせる環境づくりに努めたい」と抱負を述べた。

受賞者で記念撮影（左から２番目が多田理事長）